

LEADER'S VOICE

技術、多方面に生かす

鍵と防犯システムの販売・施工「勉強堂」(大分市)社長

片山 勇さん

かたやま・いさむ 大分市生まれ。福岡大卒業後、1993年に勉強堂入社。県内の民間人では唯一の資格「総合防犯設備士」を所有している。

鍵と防犯システムの販売・施工などで約50年の実績を誇る「勉強堂」。全国に先駆けテレビ電話を通じた映像警備を実践するなど、先端技術も積極的に導入し県内のセキュリティー業界をリードする。

ITを吸収・活用

培った技術やノウハウを生かし、店舗の遠隔管理など他分野への活用も進めて成長。昨年5月、遠隔管理システムを用いて24時間無人で運営する室内シミュレーションゴルフ練習場を、大分市の中心市街地でプロデュース。今年9月には自社スタジオも開いた。

創業した父の後を継ぎ、2008年にトップに就いた片山勇社長(52)は「培った技術をセキュリティーだけに使うのはもったいない」。視野を広く持ち、IT技術を貪欲に吸収・活用し続ける。

1966年、書店として創業。当時、家屋に鍵を掛ける習慣は今ほど定着していなかったが「今後は安全が求められる」と父が数年後、鍵の取り扱いを始めた。二重ロックが破られる家が出たのをきっかけに、赤外線センサーなどを活用するセキュリティー事業にも早くから参入。防犯のプロ集団として信頼を築いてきた。

米国のセキュリティーショーを視察した際、遠隔地を防犯カメラで監視しながら侵入者対策を講じる仕組みに衝撃を受



勉強堂社長の片山勇さん＝大分市中央町

け、従来型の駆け付け対応から侵入そのものを予防するシステムづくりへと事業方針を転換。97年に別府市で開かれた日韓首脳会談では自社の技術を生かし、テレビ電話で現地周辺の映像を警察署に送る遠隔警備を任されるなど実績を積み重ねた。

献にも、関心を強めている。自社運営の室内ゴルフ練習場には、初心者も楽しめる「スナッグゴルフ」のセットも置いた。世代を超えて楽しめるゴルフを通じ、「青少年の健全育成や障害者らの生きがいづくりに貢献し、街なか活性化にもつなげたい」という。

IT技術の革新で、セキュリティー業界の競争も激しさを増している。だが「ビジネスありきではなく、人の役に立つことを第一の楽しみとして、今後も事業に反映させていきたい」。さらなる可能性を見据えている。

人の役に立ちたい

2006年、培った技術を多方面に生かす新規事業部を設置。多店舗展開する飲食店やコンビニなどの遠隔管理システムなどを構築し、取引先を福岡、佐賀県などにも広げている。

「セキュリティーはもちろん、人づくりや地域づくりにも貢献していきたい」。人や組織を「守る」ことにとどまらず、より豊かな社会を「つくる」ことへの貢

◆企業プロフィール

- ・会社名 勉強堂
- ・創業 1966年
- ・従業員数 13人
- ・資本金 1千万円
- ・売上高 1億円
- ・所在地 大分市錦町



自社のセキュリティーシステムをフル活用した、室内ゴルフスタジオ

となりのソーシャルビジネス拝見 仕事のリデザインで実現する働き方改革(下)

「時は金なり」。アメリカ建国の父、ベンジャミン・フランクリンの語った言葉である。資本主義経済に生きる私たちは、時間＝お金という考え方が染みついているのではないか。そのためであろうか、多くの企業は働き方改革推進と聞くと、金太郎飴のようにこぞって残業ゼロを目指した。そこには、仕事(人生)そのものをリデザインという考え方はない。働くということは生きることである。時間の対価としてお金を得ることではない。

働き方改革関連法の成立前、国東半島にある株式会社アキ工作社が週休3日制を導入し注目された。現在は、代表の松岡勇

樹氏がデザインを国東時間株式会社で行い、製造部隊はFLATS合同会社として独立している。FLATSは週休2日制に戻った。戻ったことで働き方改革に失敗したのであろうか。その答えは否である。週休3日制ばかり独り歩きしたが、単純に時短にすることが松岡氏の目指す働き方改革ではなかった。都市に流れる他人に支配された時間からの脱却、時間を味方につけることによって生み出されるクリエイティビティー。そこから仕事を愛し、人生の幸せを生み出すことが目指すところであった。

FLATSの森山長英氏はアキ工作社で営業を担当していた

が、仕事を愛しているからこそ外注化しようとした製造部門を会社化した。そこで働く社員は自分たちの時間を大切にしている。松岡氏が目指した先は「時間＝お金」を切り離すこと。そのマインドが引き継がれている。

コロナ禍において多くの時間給中心の働き方をする人が生活苦に陥った。このことからわれわれは学ばねばならない。「時間＝お金」という考え方のままでは、真の意味で労働者の幸せは得ることはできない。働くということはどういうことか。個人個人が深く考えなければならない歴史的局面に立たされている。

著書に「ソーシャル・インノベーションを理論化する」切り拓かれる社会企業家の実践」など。47歳。

木村隆之(きむら たかゆき) 九州産業大商学部准教授、同オープンイノベーションセンター長。専門はソーシャル・イノベーション研究。長距離トラックの運転手から一念発起して30歳で大学に進学、研究者の道に。

